

韓国の共助的支援による高齢者ケアの取り組み

(大邱広域市の高齢者福祉施設における質的調査を中心に)

北海道大学 金昌震

1. 目的

韓国は「高齢化の速度が最も早い国」として知られている。あまりにも急速な高齢化の進展に、高齢化対策は追いつかない状況でもある。このいった状況の中、地域を基盤とした共助的支援による高齢者ケアの取り組みが注目を集めている。本研究は、都市部における高齢者生活の実態を明らかにした上で、高齢者福祉施設が持つ社会的な機能を明らかにする。また、この研究から得られた識見を通して地域の高齢者ケア・支援の改善に向けた施策を検討することが本稿の目的である。

2. 方法

都市部において高齢者福祉サービスを提供する施設として老人福祉館と敬老堂の役割は大きい。本研究の調査施設は、大邱市にあるこの2つの高齢者福祉施設であり、施設の主な利用者である65歳以上の高齢者7人や職員・館長などに半構造化インタビューを実施する。また、許可を得て動画を取りながら参与観察も行う。調査分析の枠組みとしては、社会関係資本の構成要素である「ネットワーク」「信頼」「互酬性の規範」(Putnam, 2001)の3つの切り口で分析を試みる。主要質問項目は、(1)施設利用に関する質問として利用頻度、利用のきっかけなど、(2)高齢者をめぐる扶養・支援の状況を把握するため、家族からの経済的支援「自助」、近隣との付き合い・助け合いの経験「互助・共助」、高齢者支援サービスの利用経験「公助」、民間会社で有料利用の経験とサービスの内容「商助」などを調べる。

3. 調査結果と考察

調査施設の性質や特徴をまとめると、「老人福祉館」は、1)公共施設として高齢者福祉支援の拠点、2)多様な高齢者のニーズへの対応、3)地域福祉資源の伝達者などの特徴を持っている。一方、「敬老堂」の特徴は、1)高齢者による主体的運営、2)行政や地域による支援体制、3)アクセスのしやすさなどにまとめられる。

表1 高齢者福祉施設の性質・特徴

区分	老人福祉館	敬老堂
利用者	男・女性高齢者がともに利用	主に女性高齢者の利用が多い
利用特性	一時的	常時的
会員状況	会員増加	会員減少
[五助]の種類	公助・互助	共助・互助
社会階層	低・中階層の利用	低階層の利用
関係性	適度な距離感を維持(異質的)	親密感を維持(同質的)
行動様式	生活拡充行動	生活基本行動
コミュニティ類型	都市型コミュニティ	農村型コミュニティ

表1からわかるように、地域の高齢者福祉施設である「老人福祉館」と「敬老堂」は、広井(2009)も指摘したように都市型コミュニティと農村型コミュニティとして長所・短所を持っている。ところが、いずれか一方が理想的なものではなく、重要なのは両者の協働と融合した重層的な支援体系の形成である。「老人福祉館」と「敬老堂」に見られた連携と協働は、高齢者福祉施設による重層的な支援体系を可能にした取り組みで、1)高齢者の生活全般にわたって社会関係を拡充(bridging social capital)し、2)社会的包摂を強化(bonding social capital)することが期待される。これらが高齢者福祉施設が持つ社会的な機能である。

【参考文献】

Putnam, Robert D., 2001, *Bowling alone—The Collapse and Renewal of American Community*, New York: Simon & Schuster, 15-28.

広井良典, 2009, 『コミュニティを問いなおす』, ちくま新書.